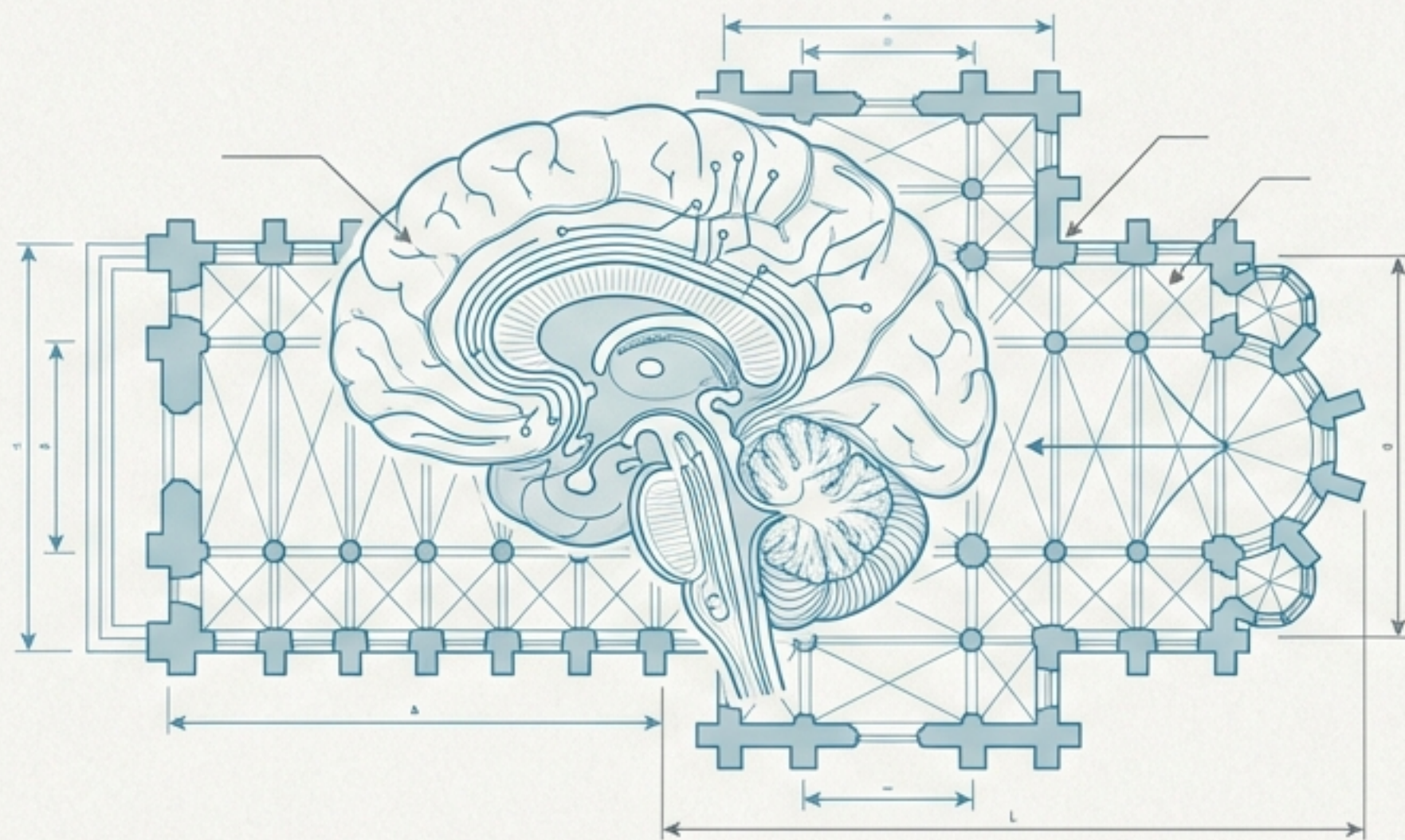


# 宗教・精神病理・集団原理

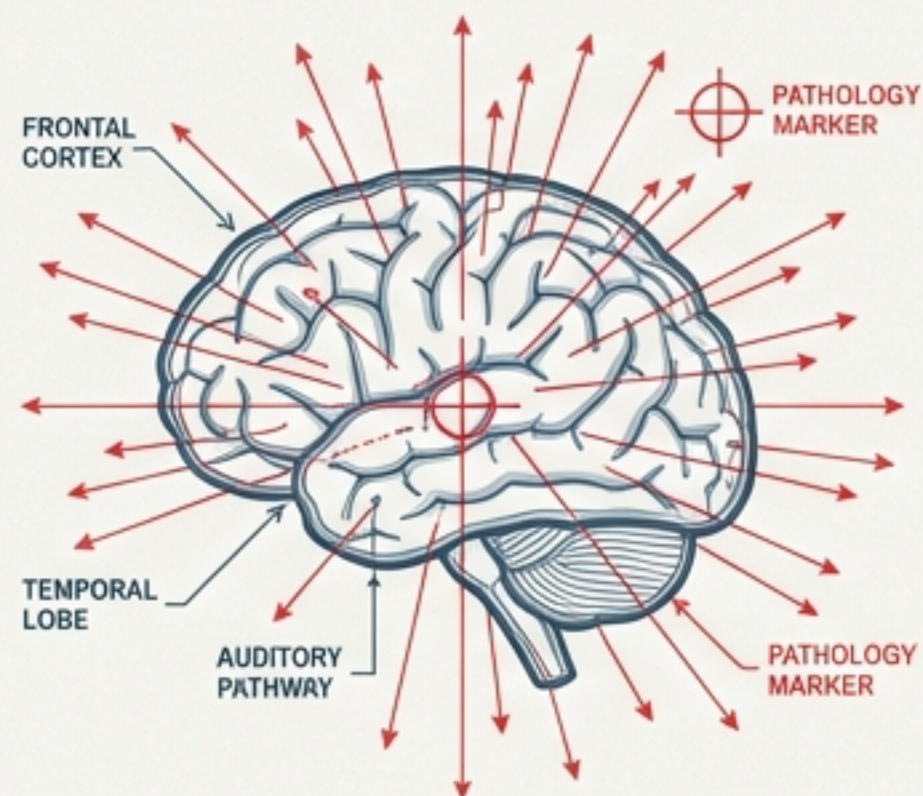


日本における「信仰なき宗教」の構造分析

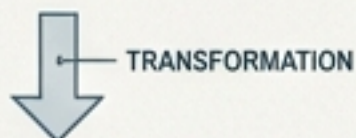
Noto Sans JP

## 宗教とは、普遍的な精神構造を統合・制度化する文化装置である

### シゾフレニ的（統合失調的）心性

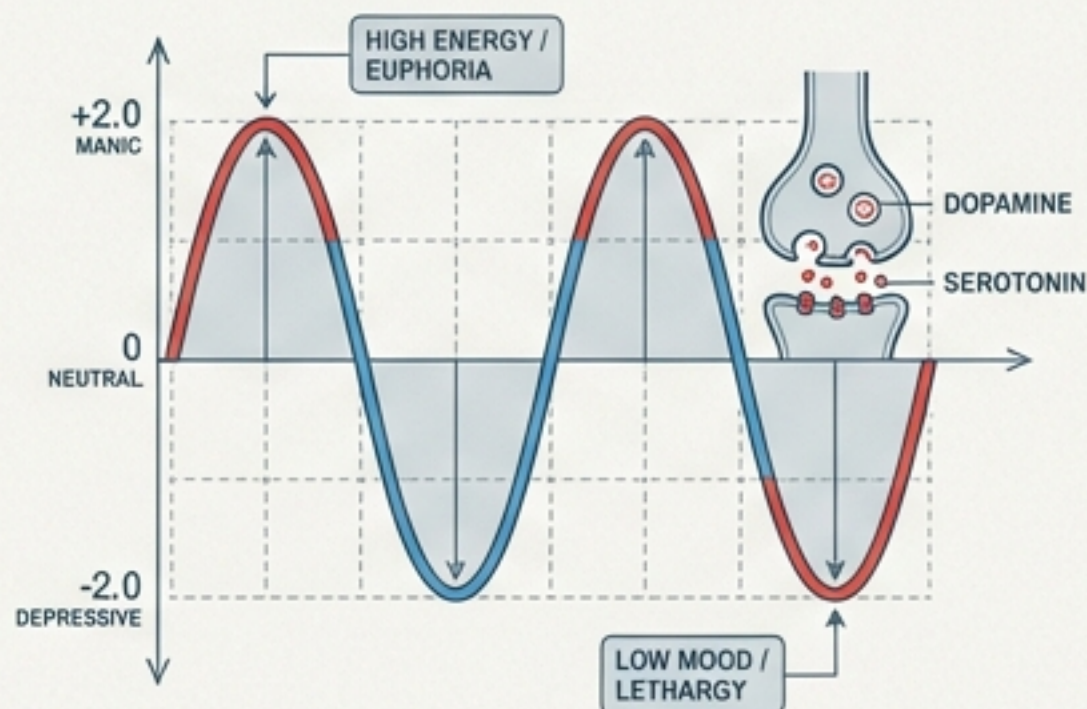


【医学的】妄想・幻聴・被害体験



【宗教的】啓示・召命・預言

### バイポーラー的（双極的）心性

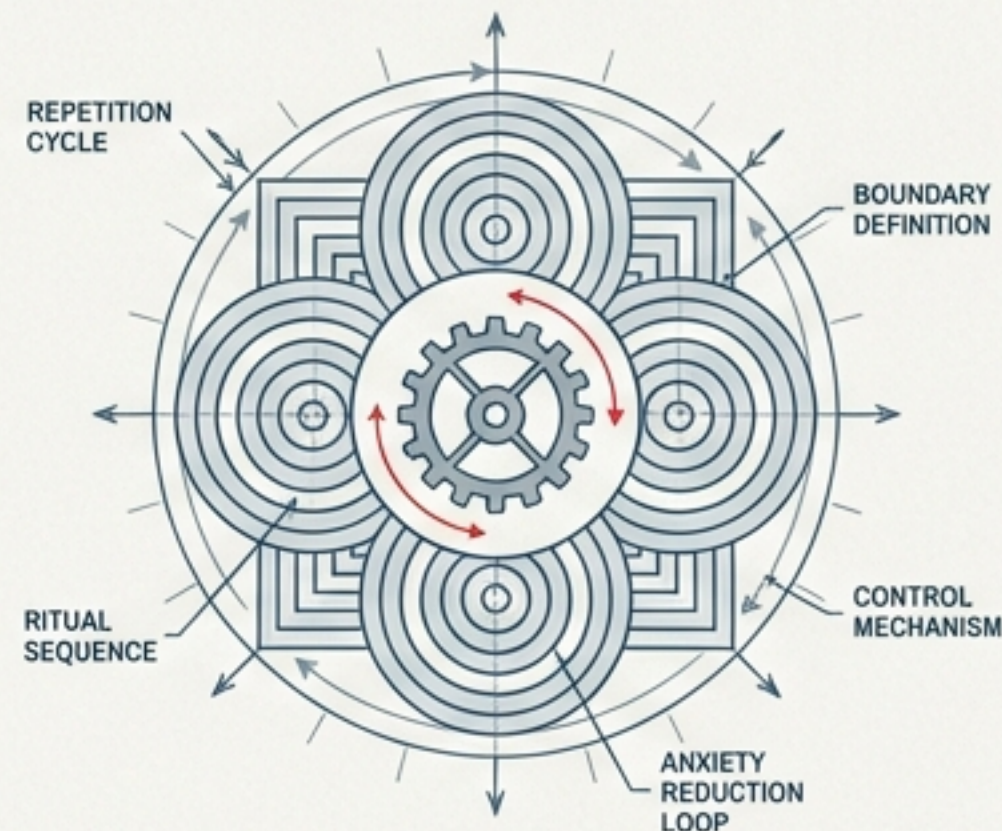


【医学的】躁状態・抑うつ・高揚



【宗教的】祭礼・祝祭・集团的陶醉

### 強迫性心性



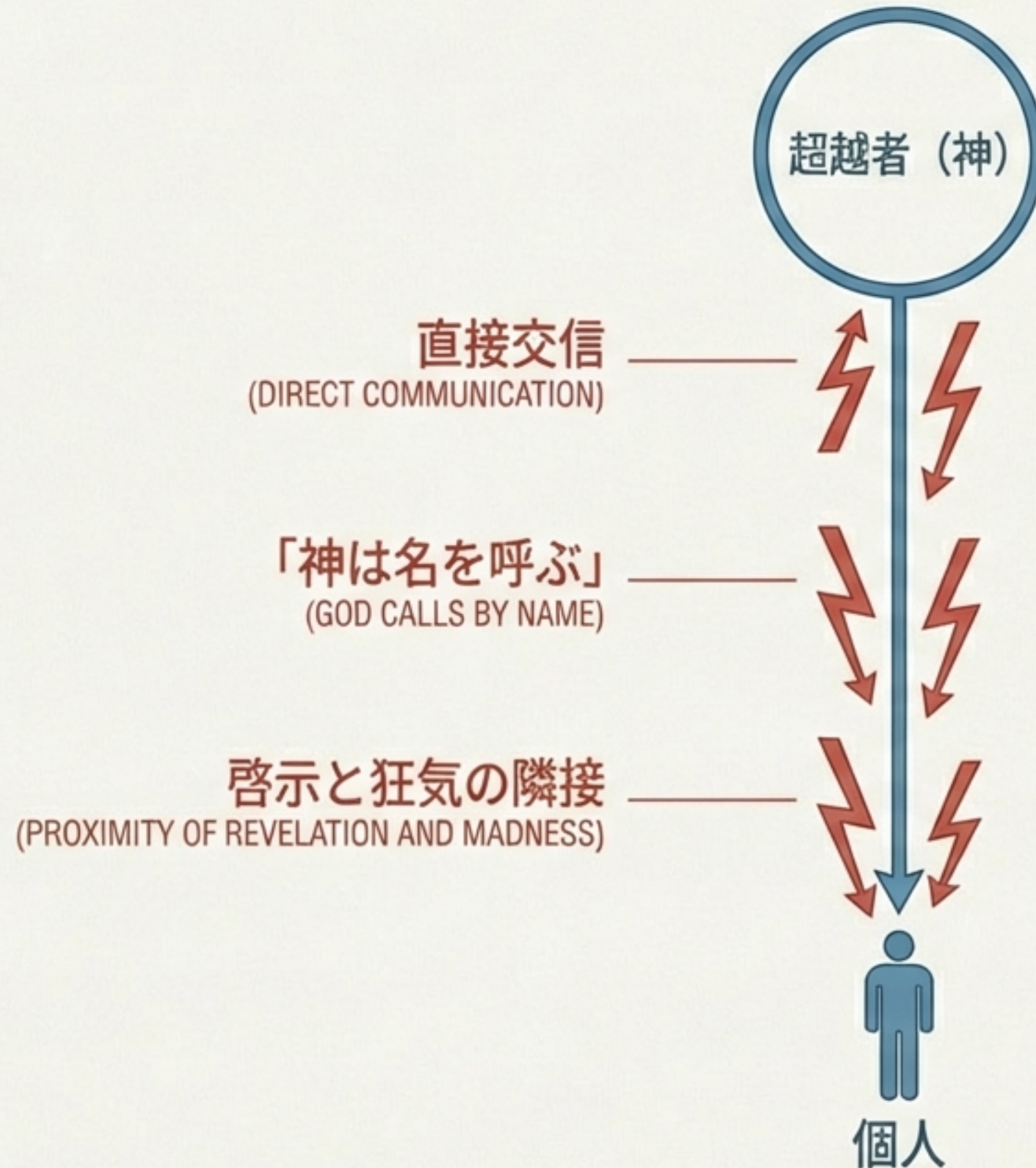
【医学的】反復・儀式・確認強迫



【宗教的】読経・儀礼・結界・修行

「精神医学が症候として扱うものを、宗教は意味生成の資源として利用してきた」

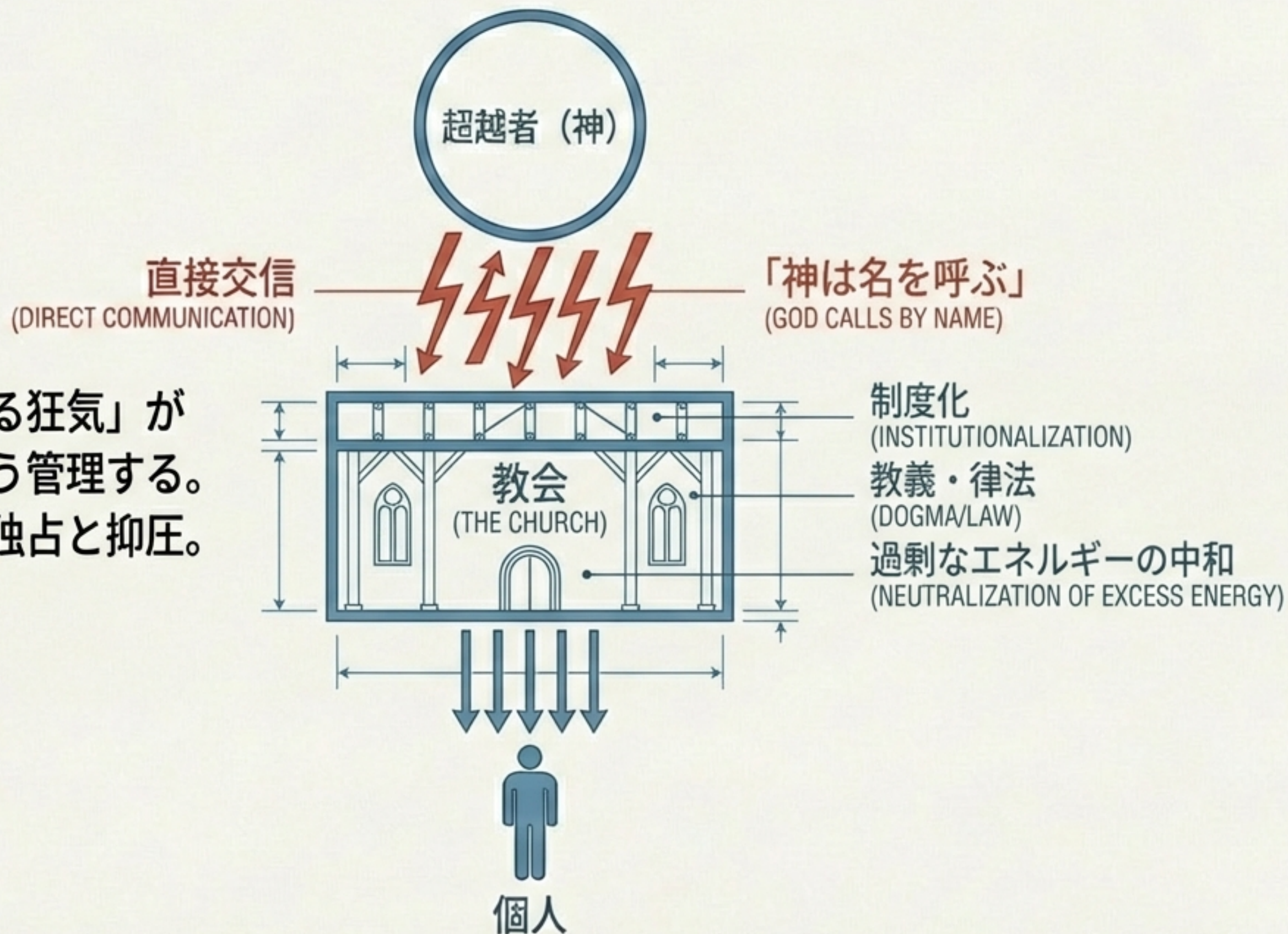
## 聖書という「巨大な装置」



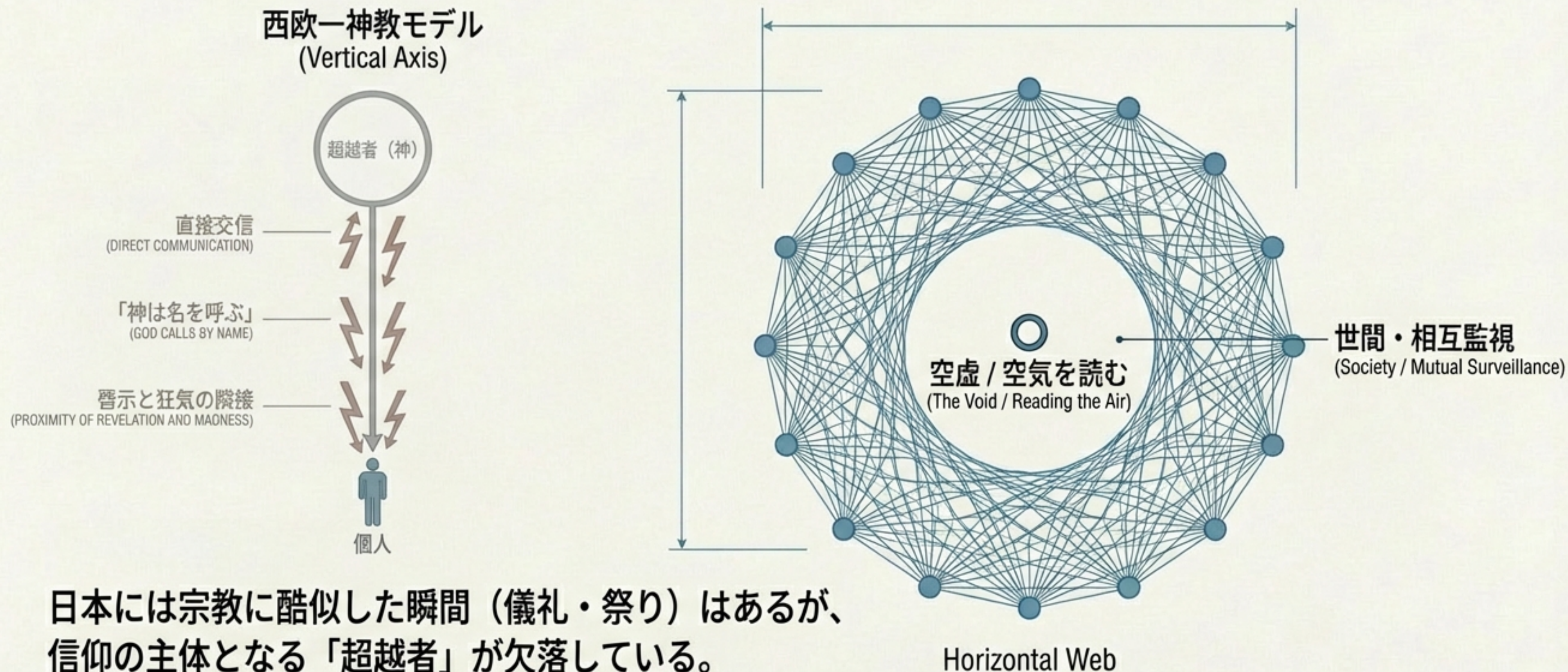
聖書は、個人の「声（幻聴）」を  
集団のテキストへと編集し、極端な  
精神状態を文化として耐久化させた。

## 教会という「安全弁」

機能：個人の「聖なる狂気」が  
社会を破壊しないよう管理する。  
リスク：権力による独占と抑圧。



# 日本の特殊性：超越なき「横の」構造

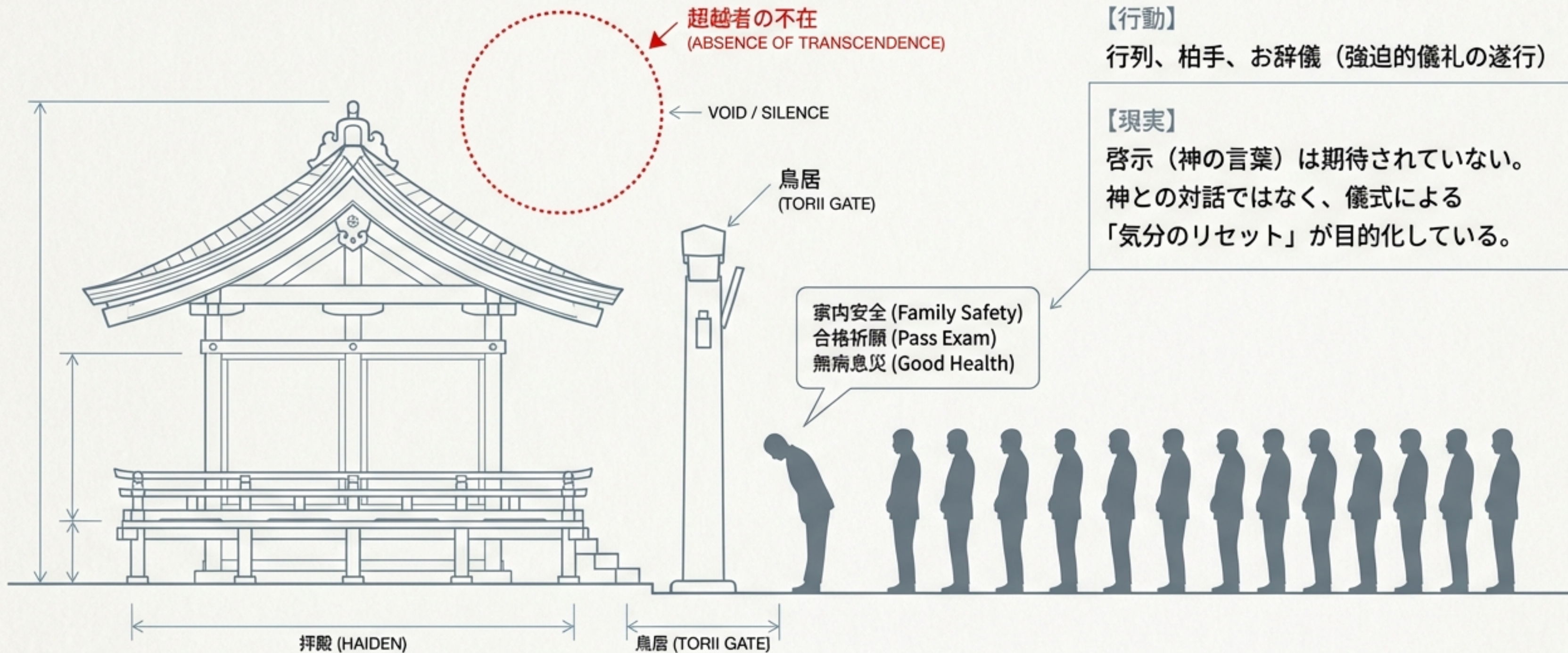


日本には宗教に酷似した瞬間（儀礼・祭り）はあるが、  
信仰の主体となる「超越者」が欠落している。

「アニミズム」 + 「未完の国家神道」 = 信仰なき迷信の構造

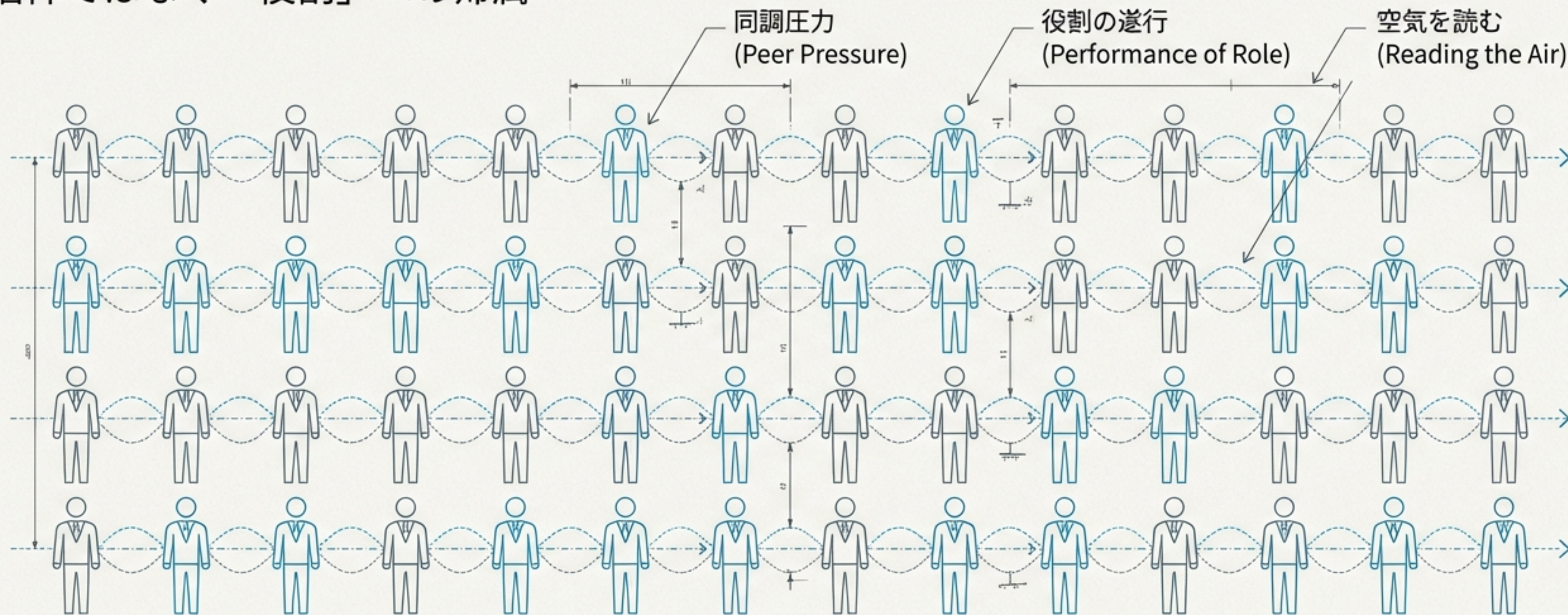
# ケーススタディ 1：初詣

神の前に立つが、神と出会わない



# ケーススタディ 2：組織と朝礼

信仰ではなく「役割」への帰属

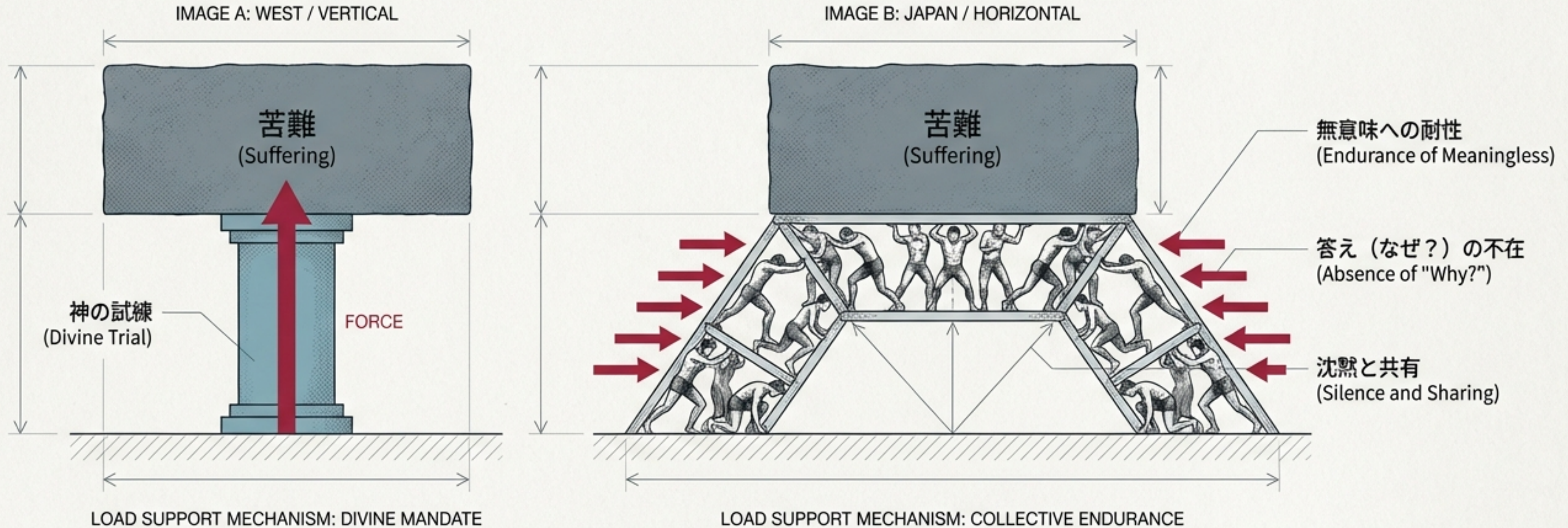


日本では「何を信じているか」は問われない。「場の空気を読み、役割を全うできるか」が問われる。災害時の「絆」も、神への祈りではなく、横のつながりによる相互監視と耐久のシステムとして機能する。

# 「耐える」というメカニズム

Clinical Architectural

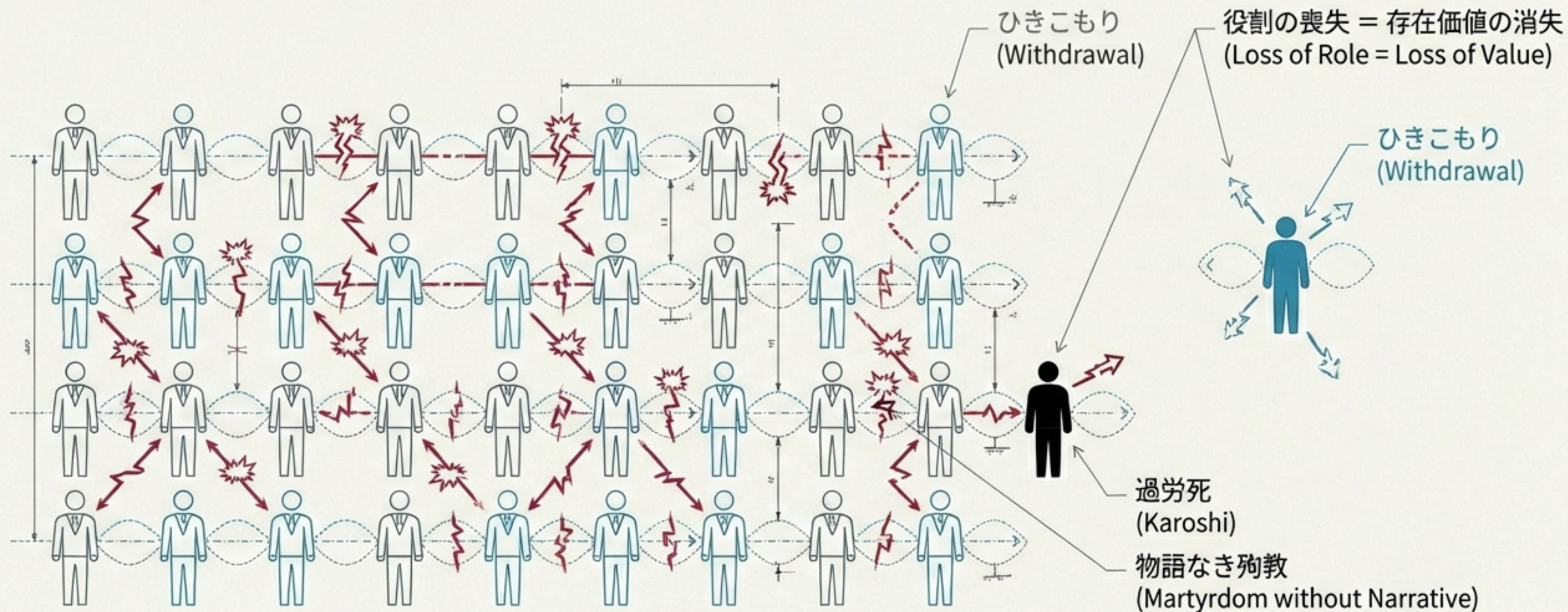
## LOAD DISTRIBUTION DIAGRAM



### KEY INSIGHT

「なぜ私が苦しむのか」という問いへの答えが存在しないまま、  
身体的耐久と関係性で空白を埋める。

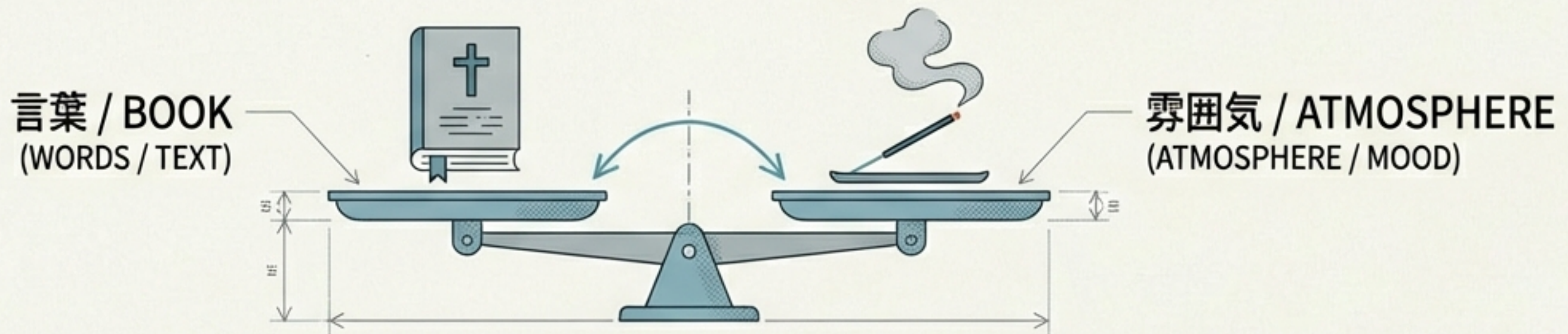
# 構造の破綻：過労死とひきこもり



横の構造の危うさは、集団の外には「沈黙」しかない点にある。  
一神教では孤独者も「神の子」だが、日本において役割を持たない者は「居場所 (Ibasho)」を失う。

# 言葉を与える宗教 vs 雰囲気にとどまる宗教

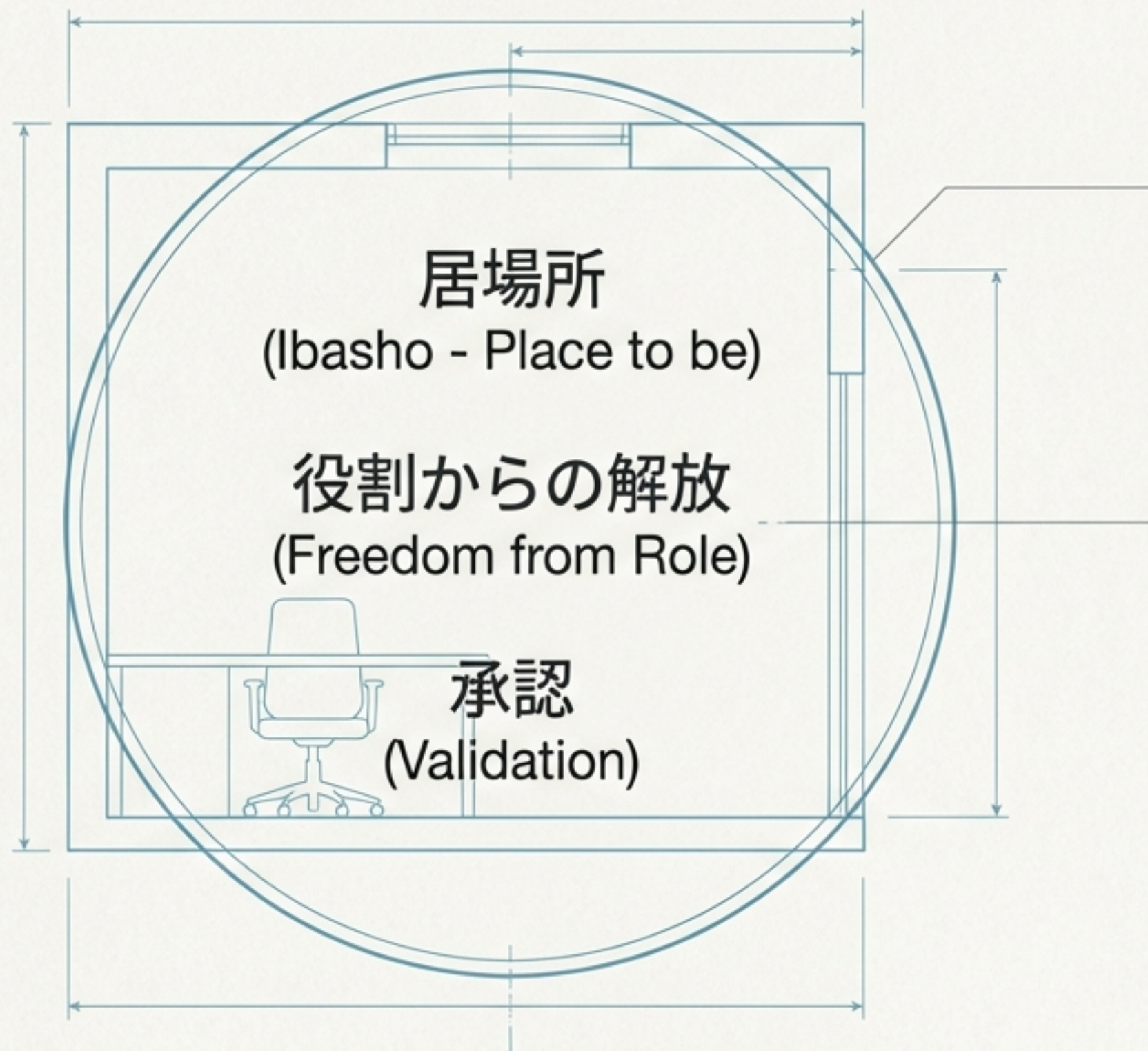
| 英国・西欧 (UK / West)                                                              | 日本 (Japan)                                                                             |
|--------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| → <b>ロゴス (Logos / Words)</b><br>(LOGOS / WORDS)                                | → <b>空気 (Atmosphere / Mood)</b><br>(ATMOSPHERE / MOOD)                                 |
| ・ 葬儀では司祭が死を「物語」として語り直す。                                                        | ・ 葬儀は読経と焼香。意味内容は語られない。                                                                 |
| → <b>意味の言語化・翻訳</b><br>(Verbalization of Meaning)<br>(VERBALIZATION OF MEANING) | → <b>意味の感覚化・沈黙</b><br>(Sensing of Meaning / Silence)<br>(SENSING OF MEANING / SILENCE) |



日本では、生と死の意味を言語化する制度的習慣が欠落している。

# 「代替宗教」としての精神医療

Slate Gray Noto Serif JP



神なき社会において、精神医療  
(心療内科・カウンセリング) が  
その空白を埋める。

Helvetica Neue

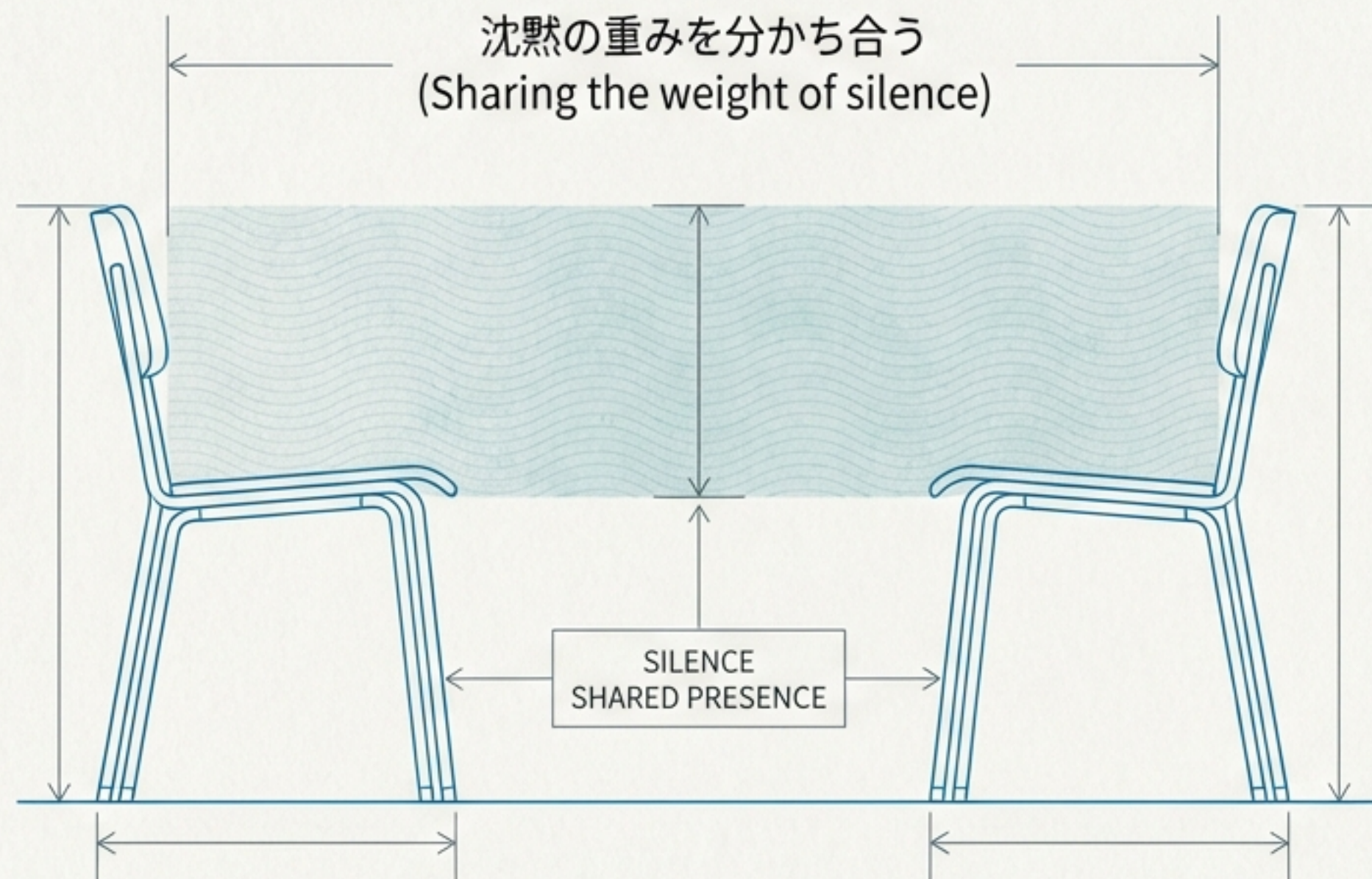
【機能のシフト】

救済 (Salvation) → ケア (Care)

奇跡 (Miracle) → 耐久への立会い  
(Witnessing Endurance)

「治す」ことよりも、「孤立させない」  
ことが目的となる。

# 慎ましい希望：意味の不在に耐える技法



回復とは、「神を見つける」ことでも「元通りになる」ことでもない。

「なぜ生きるのか」という問いが答えられないままでも、その人が崩壊せずに存在できる「場」と「関係」を構築すること。

一人で耐えるモデルから、共有するモデルへ。

# 結論：神なき社会の「回復」モデル

1

## 診断 (Diagnosis)

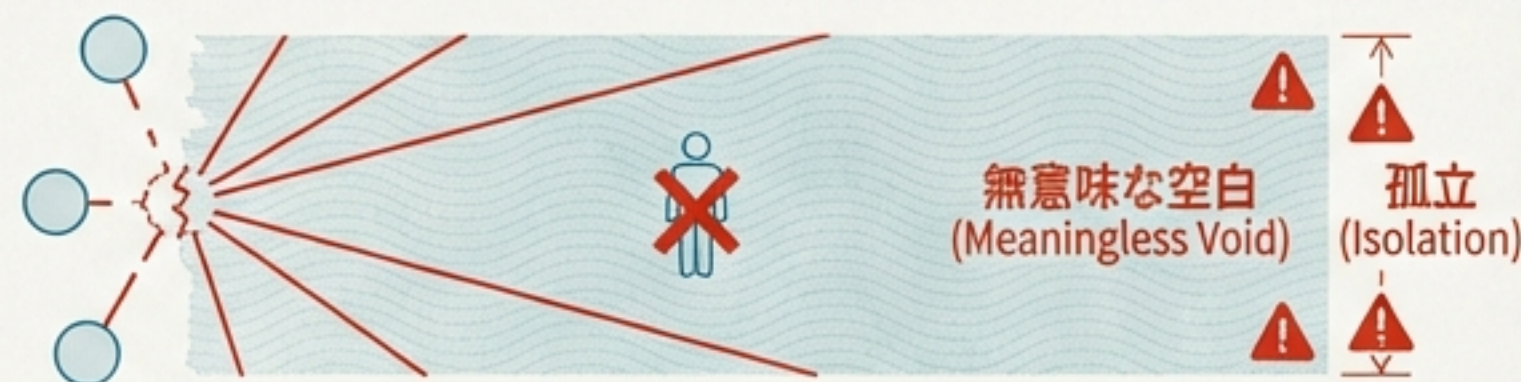
日本は「役割」が神の代わりを果たす「横の社会」である。



2

## 症状 (Symptom)

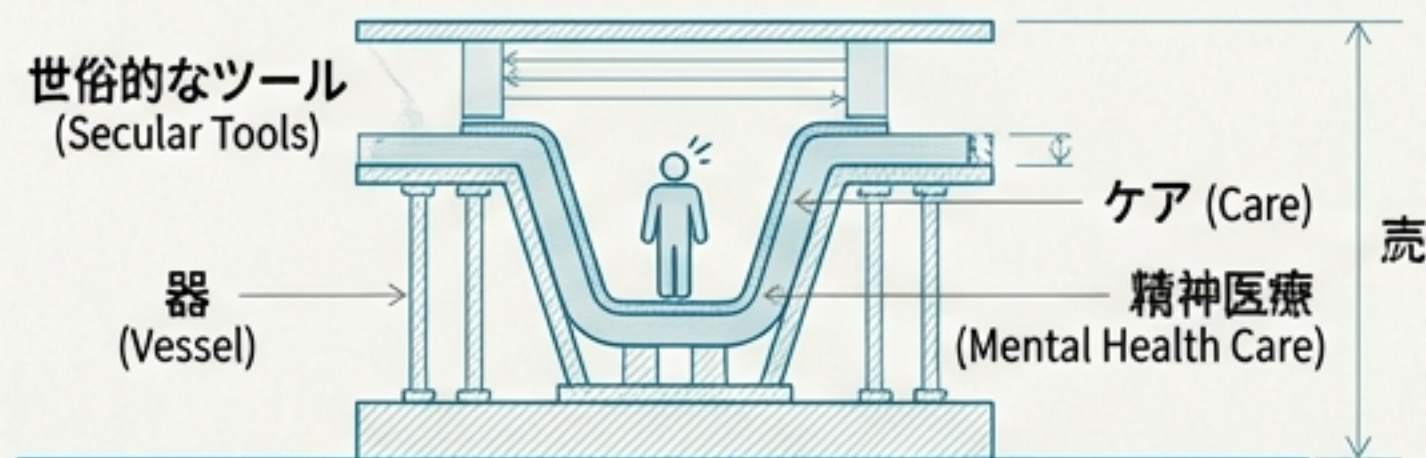
役割が機能不全に陥ると、個人は「無意味な空白」に直面し、**孤立**する。



3

## 処方箋 (Prescription)

新たな神を導入することはできない。我々は、精神医療やケアという世俗的なツールを洗練させ、苦しみを抱えるための「器」を再構築しなければならない。



「我々は救済を約束しない。しかし、その崩壊が孤独なものではないことを保証する。」